

嘉瀬川水系の多段階浸水想定図 及び水害リスクマップについて

令和8年3月
佐賀河川事務所



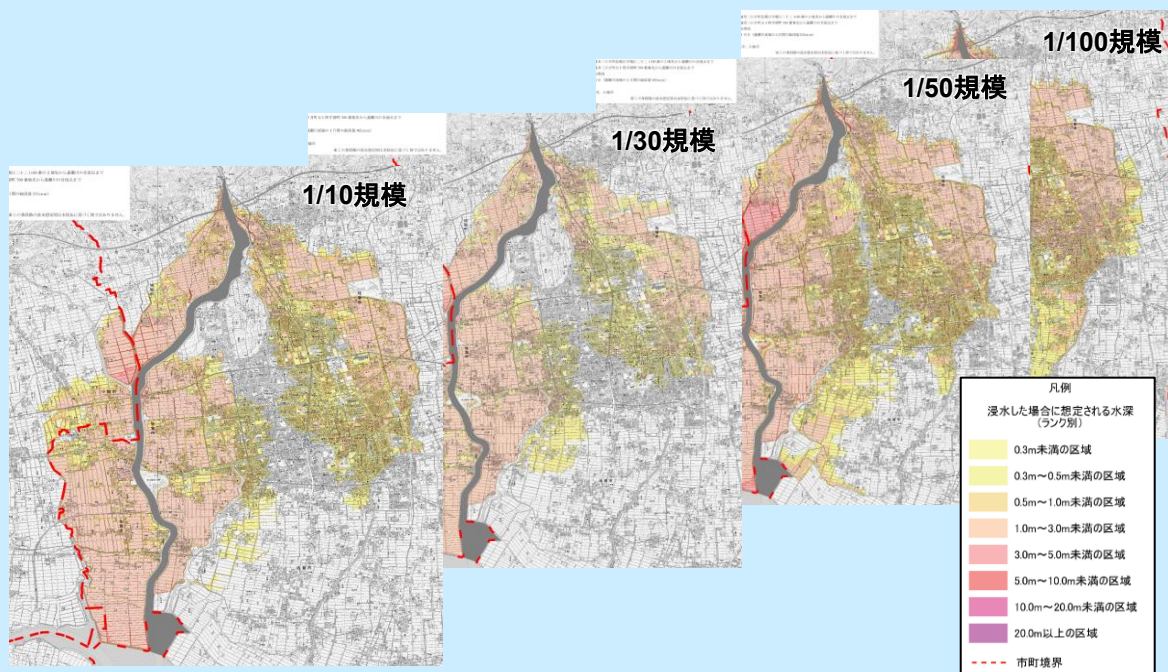
国土交通省
佐賀河川事務所

多段階の浸水想定図及び水害リスクマップについて

- 従来、想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した水害ハザードマップを提供し、洪水時の円滑かつ迅速な避難確保等を促進しています。
- これに加えて、比較的発生頻度が高い降雨規模も含めた複数の確率規模の降雨によって想定される浸水範囲や浸水深を明らかにし、浸水の生じやすさや浸水の発生頻度を示す新たな水害リスク情報の提供が重要であるため、「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」作成しました。

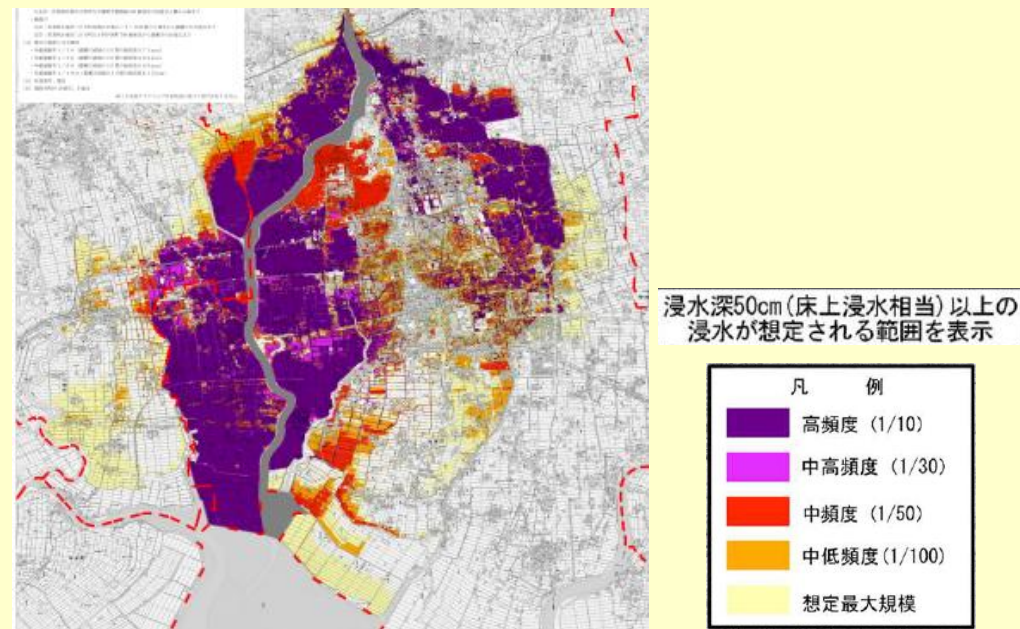
「多段階の浸水想定図」とは

- ・降雨の確率規模別(年超過確率 1/10、1/30、1/50 等)に作成した浸水想定図。
- ・確率規模毎に浸水範囲及び浸水深を確認できる。

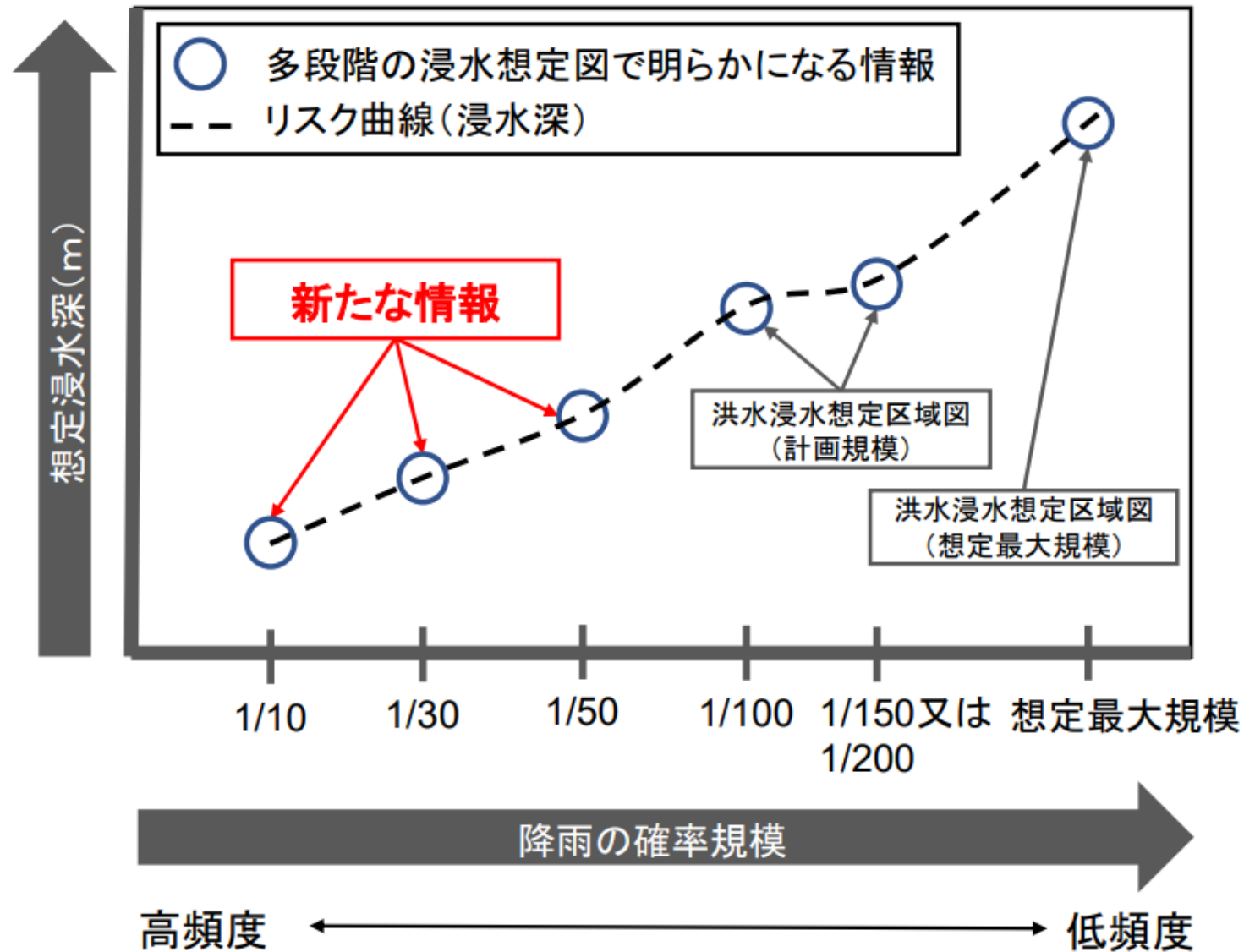


「水害リスクマップ」とは

- ・所与の浸水深になると想定される浸水範囲を、降雨の確率規模別(年超過確率 1/10、1/30、1/50 等)に異なる色で示した地図。
- ・浸水深毎に確率規模別の浸水範囲(浸水頻度)を確認できる

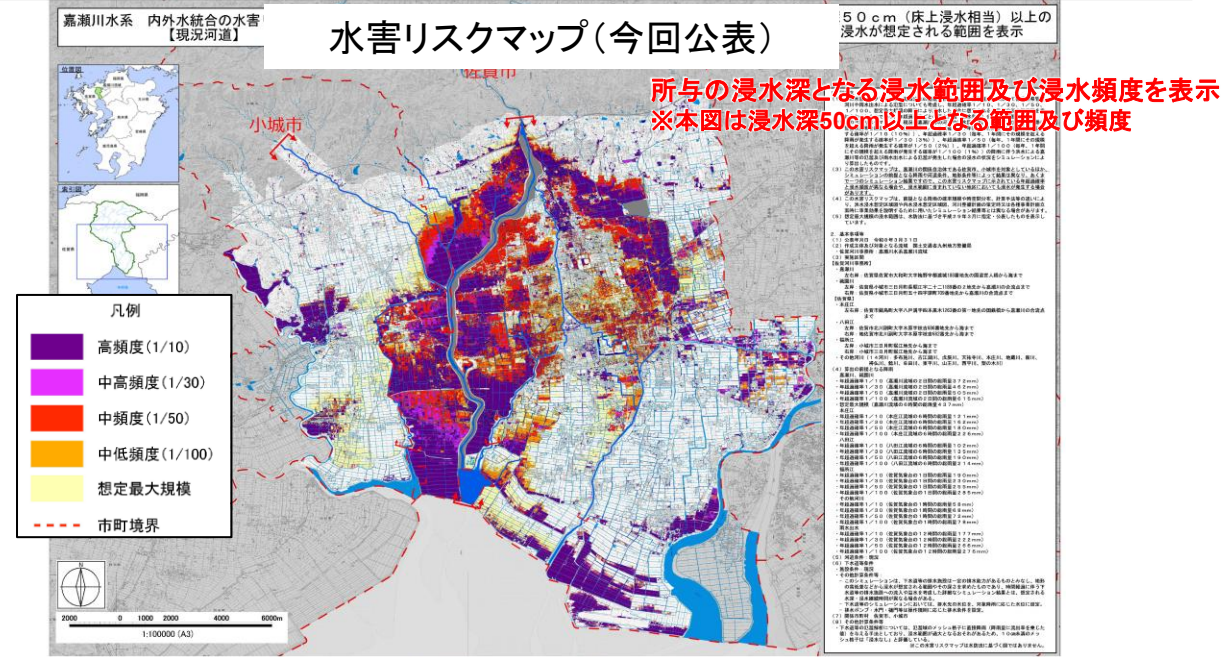
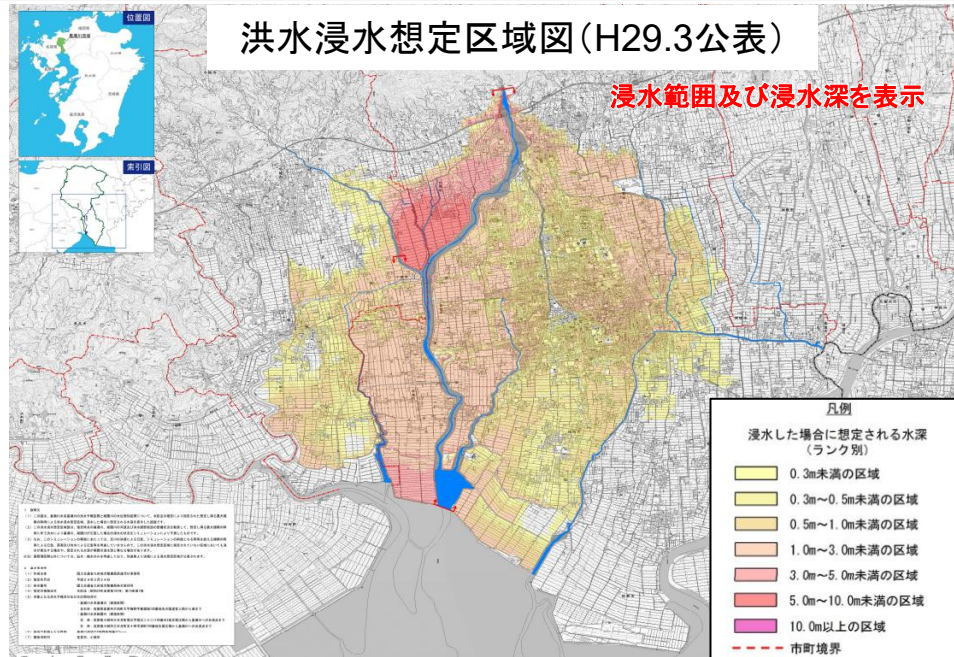


多段階の浸水想定図による新たな情報(イメージ)



洪水浸水想定区域図と水害リスクマップの違い

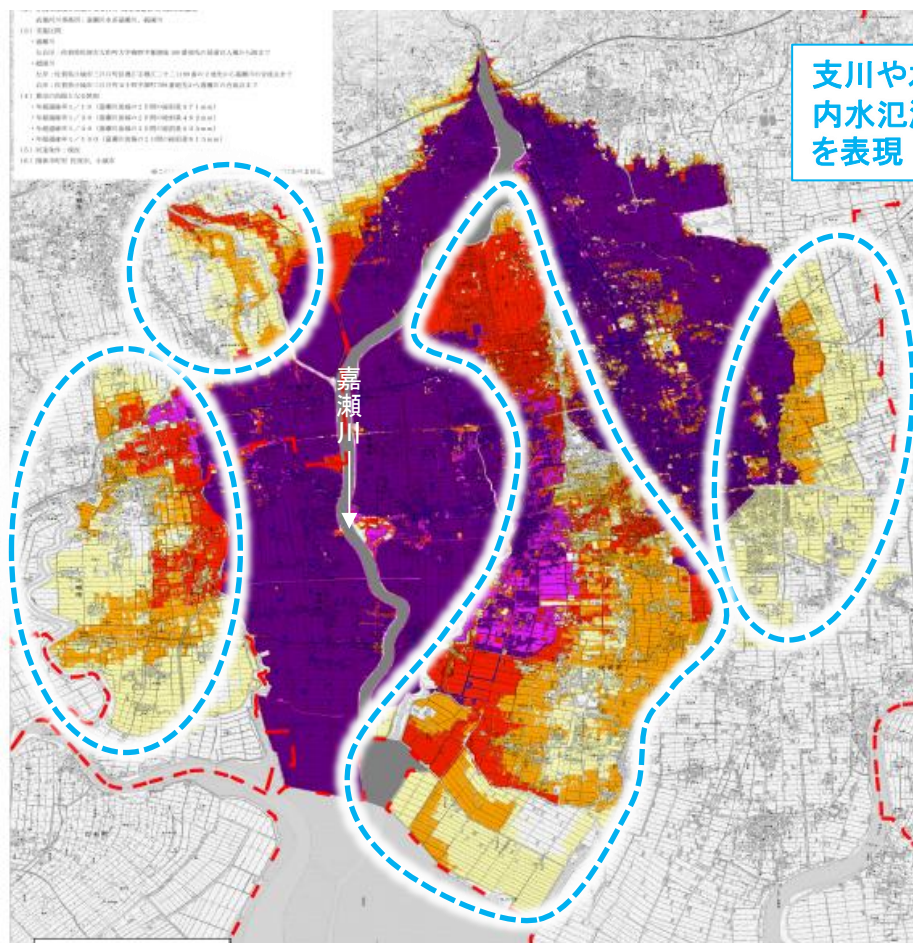
- 洪水浸水想定区域図は、最悪の事態を想定して、命を守るという観点から、避難が必要となる場所と安全な場所を把握することを目的としています。
- 水害リスクマップでは、降雨の発生確率ごとの浸水範囲を表示することで、中小規模の洪水でも比較的浸水しやすい場所が把握できます。



	洪水浸水想定区域図	水害リスクマップ (浸水頻度図)
表す情報	浸水範囲、浸水深	浸水範囲、浸水頻度 ※所与の浸水深ごとに表示
主な用途	避難行動	防災まちづくり、企業立地選択等
降雨条件	想定される最大規模の降雨	発生頻度の異なる降雨

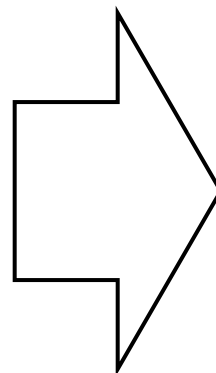
今回公表する水害リスクマップについて

- 今回公表する「水害リスクマップ」は、国管理河川からの外水氾濫に加え、支川・水路・下水道等からの内水氾濫による浸水リスクを一体的に表現したものです。
- これにより、中高頻度の降雨に対して、実態に即した氾濫状況を表現することができ、より実効性のある防災まちづくりの検討への活用が期待されます。

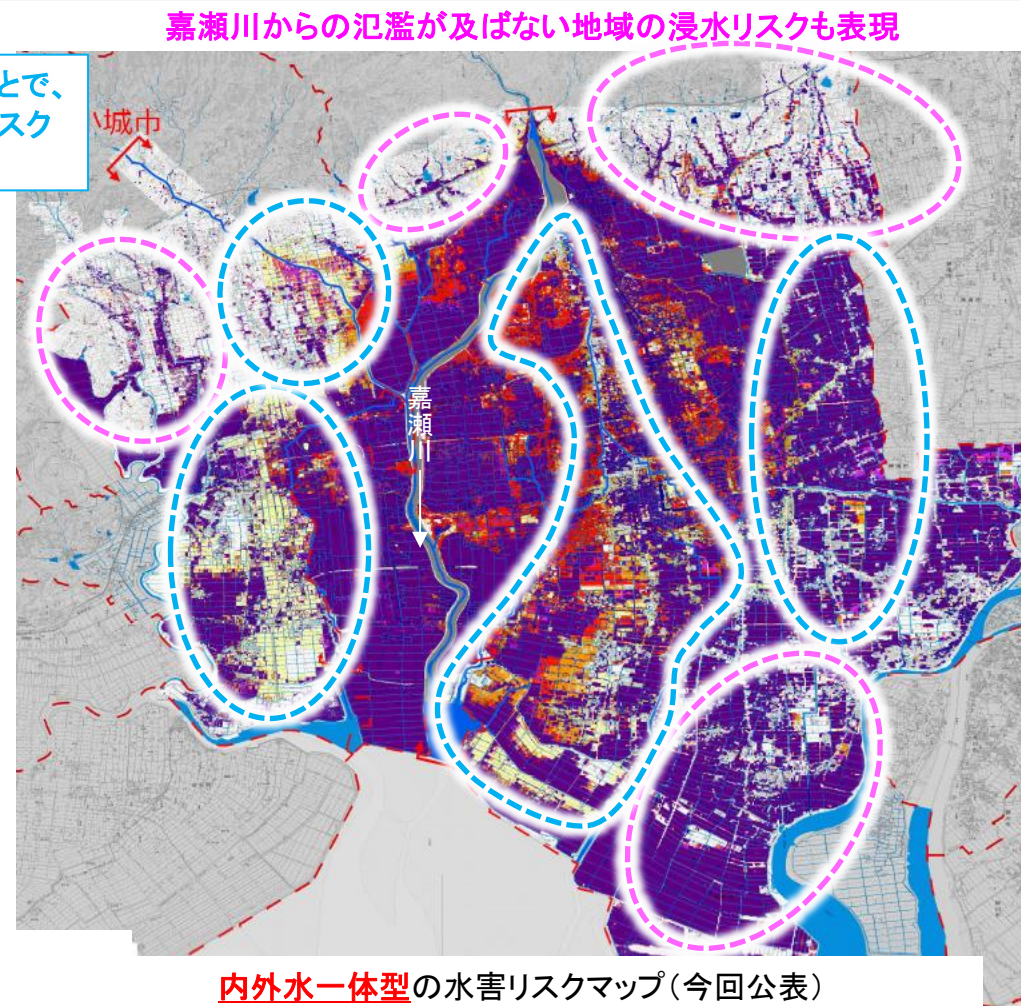


支川や水路等を計算モデルに加えることで、内水氾濫も考慮した中高頻度の浸水リスクを表現

国管理区間からの外水氾濫のみ考慮した場合の水害リスクマップ



凡例	
	高頻度(1/10)
	中高頻度(1/30)
	中頻度(1/50)
	中低頻度(1/100)
	想定最大規模
	市町境界



嘉瀬川からの氾濫が及ばない地域の浸水リスクも表現

内外水一体型の水害リスクマップ(今回公表)

○建築構造検討への活用

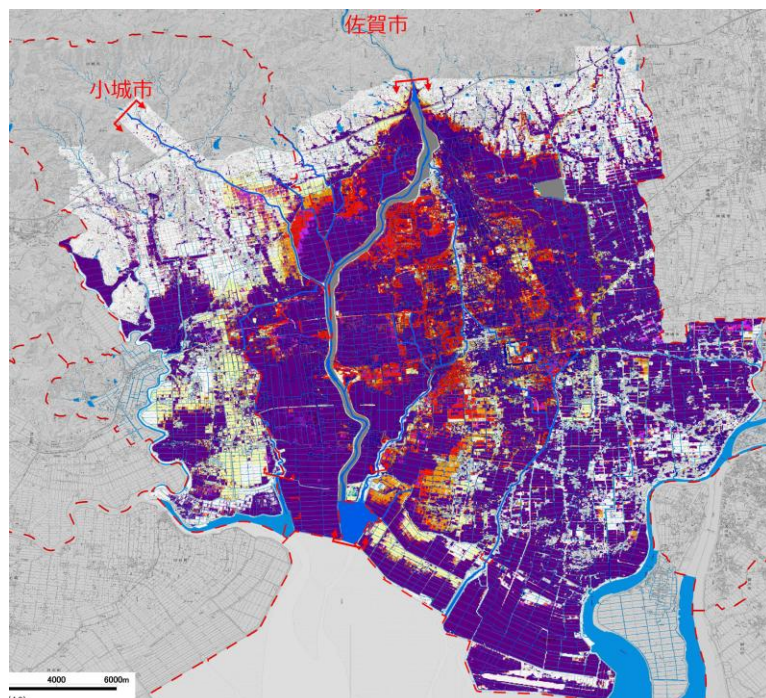
・浸水頻度が高い地域において、建物の高床化や1階をピロティ構造にするなど、建築構造検討への活用が考えられます。

○企業立地選択等への活用

・床上浸水相当以上の浸水頻度が高い場所への企業立地を避けるほか、浸水頻度を踏まえて、事業継続に必要な資機材を2階以上に移動する、止水壁を設置するなど浸水対策の検討に活用することが考えられます。

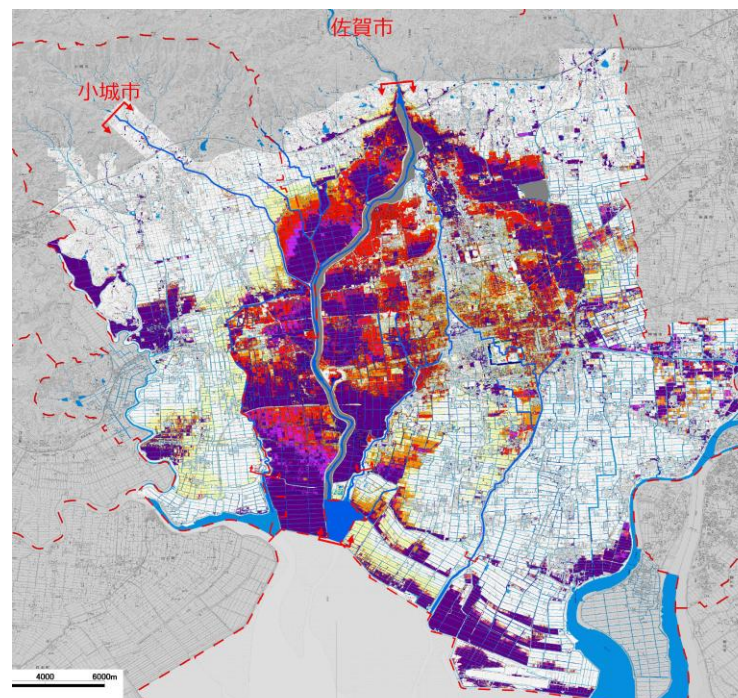
○水害リスクを踏まえたまちづくり・避難所設置への活用

・浸水頻度が低い地域への居住誘導など、立地適正化計画における防災指針の検討に活用することが考えられます。



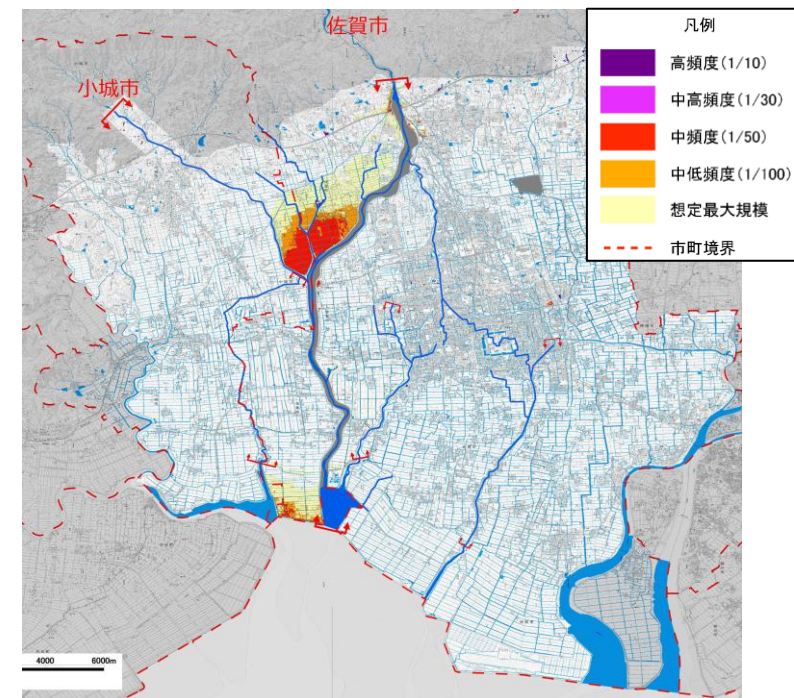
大部分が高頻度～中頻度で浸水

①浸水が想定される範囲



①と比較すると、市街地などで発生頻度は減少

②浸水深50cm以上が想定される範囲
(床上浸水相当)



発生頻度は概ね中頻度～低頻度かつ一部のエリアに限られる

③浸水深3m以上が想定される範囲
(1階居室浸水相当)